

医療事故調査・支援センターへの医療事故調査報告について
(手術翌日 腫瘍、手術侵襲による過凝固状態での死亡例)

1. 医療事故の概要

(1) 患者

74歳 男性

(2) 要約

脳梗塞で他院入院治療。胃癌手術のため抗血小板療法を中止した状態で当院入院し、翌日に腹腔鏡下胃切除術を施行した。一般病棟にて手術翌朝まで順調に経過したため心電図モニターを外した。10時30分頃、医師が診察しバイタルサインは良好、術野からの出血等なく同日朝の血液検査にて貧血等なく経過良好であることを確認し、本人にも同様の説明をした。午前11時頃、嘔気を訴えたので吐き気止めを投与。血圧は93/72(30分前の測定値は159/79)、脈拍111であることを医師に伝えた。医師は総合的に判断し再診察は行わず経過観察とした。約1時間後に看護師が離床のため訪室すると心停止状態であった。心肺蘇生で一時的に心拍再開したが、低酸素脳症状態となり約2時間後に死亡された。

2. 医療事故調査の経緯

- 本事例は、医療法に基づく医療事故調査報告制度の対象事案に該当するものとして令和2年11月12日に医療事故調査・支援センターへ報告。
- 院内事故調査会（外部委員2名、内部委員4名）を2回（令和3年2月22日、令和3年7月13日）開催して調査分析を行い、報告を作成。
- 令和3年8月11日に医療事故調査報告書により調査結果をご遺族に説明。
- 令和3年9月22日に医療事故調査報告書を医療事故調査・支援センターへ提出。

3. 検証・分析の主な対象

- 死因の検証

(1) 死因

〈直接死因〉

虚血性心疾患による心不全

〈原死因〉

腫瘍に伴う凝固亢進状態に手術侵襲による凝固亢進が加わった過凝固状態

- 臨床経過に関する医学的検証

- ・外来通院から入院、手術前まで
- ・手術：麻酔
- ・術後管理

- ・トルソー症候群との関連について

4. 検証・分析結果の総括

このケースは一般的胃癌に照らし合わせれば、手術適応、意思選択も妥当と考える。手術説明およびその内容記載についても、このケースは岐阜県総合医療センターの手術例と比較して逸脱していない。術前の肺塞栓のリスクを高リスク評価と判断し予防を講じている。術中も問題なく通常に行われ、翌朝の心電図モニターの終了のタイミングも通常どおりで問題がない。心停止当日朝の心電図モニター終了、午前10時台の投薬、当患者の転帰を考えると、術前の検査、周術期のモニター管理において、通常とは異なる対応や準備を行う必要があったかもしれない。しかしながら現在の一般的な基準においてはそれを検出することは困難である。

5. 遺族の質問・疑問

術後一般病棟ではなくICU等の病棟に入れるべきではなかったのか。

心電図モニター取り外しのタイミングが早すぎたのではないか。

吐き気を訴えた際、急激な血圧低下があったのに何故診察・対応しなかったのか。

吐き気止め投与後、1時間も様子を見なかったのは何故か。

6. 再発防止策について

- (1) 抗血小板剤（バイアスピリン）休薬については、消化管の手術にともない休薬期間が延長する可能性を含めて、休薬リスクを判断する必要がある。処方医と手術診療間で連携して症例を集積してリスクを判断し、患者側へのICに追加することを検討する。
- (2) 胃癌手術クリニカルパスを利用しているが、適応に明確な基準を定め症例に応じて細分化する必要がある。重症な合併症を有する症例に対して適応基準外とするなど検討を要する。
- (3) 術後の薬剤使用や体位変換に関して、症状出現やバイタル変化があった場合、酸素飽和度やバイタル再検をおこなう適応基準を症例に応じて細分化する必要がある。
- (4) 事後に専門医の検証の際に心筋梗塞発症や心機能低下が判断しやすいよう急変時に心臓エコー検査などを施行した時は動画を残すように努める。
- (5) 病棟での薬剤使用の医師指示があるが、使用基準を明確にする。
- (6) AIでのCT検査を施行しているが、急性脳梗塞などMRIの方が有用性の高い場合は考慮する。
- (7) 術前スクリーニング検査にDダイマーや下肢静脈エコー検査など深部静脈血栓症精査を検討する。
- (8) 術前検査のタイミングであるが、手術との間隔をできるだけ短期間とする。

- (9) 胃癌の手術治療は胃癌周術期パスや総合サポートセンターによる術前検査など、定例化された。今後は、これまでの定型化でもたされたデータを細かく検証し、細分化あるいはオーダーメイド化により更なる生存率の向上をめざすことが望まれる。
- (10) 合併症を有する手術症例においては、術前より配偶者/子/親等の近親者ととも本人に手術のリスクを強く説明した上で同意を得るよう、説明時間を多くとる。また、リスクの高い手術の周術期においては家族の面会時間を十分にとれる配慮をおこなう。